VOL.003

TONEZ

MAGAZINE

ブレイディングスタイルの概念を変える

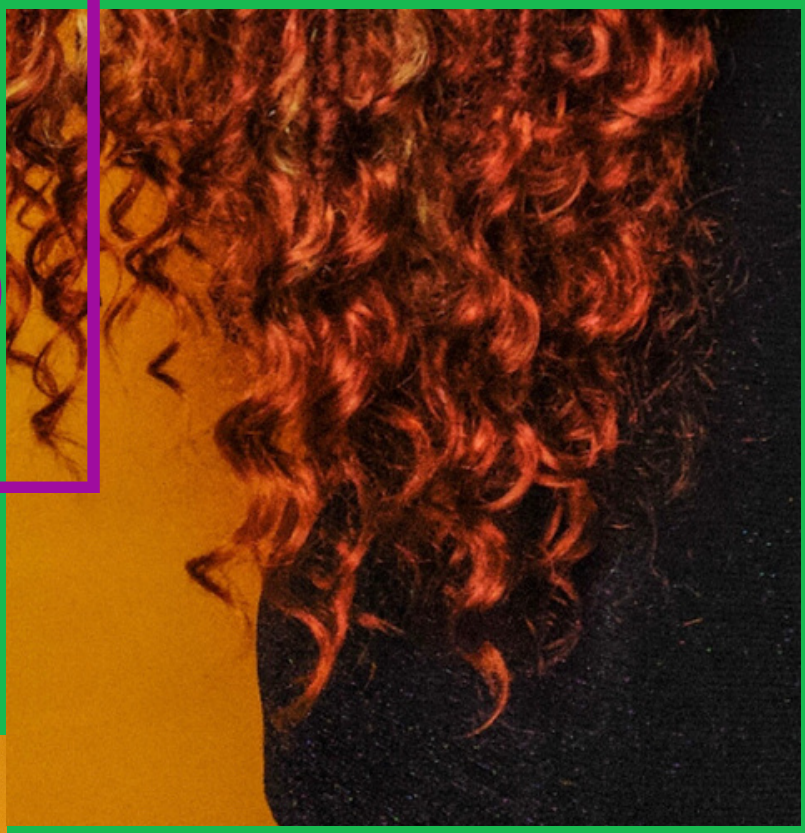
Hair Braiding Art Photo Competition 2022

特集

0 00035 54562 0

TONEZ

ISSUE 03



03 ブレイディングの歴史

08 審査員紹介

10 ファイナリスト作品

spark
on
babe

ブレイディングの歴史は6000年!?

ブレイズやコーンロウなど、今では日本でもファッションスタイルの一部として受け入れられるようになりましたが、まだまだブレイディングの深い歴史は広く知られていないのが事実。
黒人文化を語る上でなくてはならないブレイディングですが、日本では若者向けのヘアスタイルと思われたり、不良が好むものという固定観念を持たれることが多く、髪を編むことが髪をまとめるために必須となる黒人や黒人のミックスの方達にとって差別を深刻化させる悩ましいステレオタイプ問題です。髪の毛を編むという行為は、歴史が深く、アートでもあり、文化でもあることはあまり知られていません。

人類の故郷といわれるアフリカ。大陸は世界地図で見るよりも膨大で、実はアフリカ大陸に、米国、中国、日本、東ヨーロッパなどがスッポリ入ってしまうくらいの大きさ。アフリカは地球上で最も遺伝的に多様な大陸なんです。”フレンチブレイズ”と言われる三つ編みが描かれた6000年前の最古の遺物もアルジェリアで見つかっています。

ブレイディングは自由自在

髪を編むこと＝イカつい、ラッパー、ダンサーなどと思われますが、ブレイディングスタイルは本来は多用途でフレキシブル。アジアに住む黒人やミックスの中には、髪を編むと怖がられるし、遊び人と思われるから編みたくないという人も実は多いんです。でも、髪を編むことは文化的意味だけではなく、髪を簡単にまとめられたり、センシティブなカーリーヘアを外的刺激から守ることでもあります。技術者にクリエイティビティとテクニックさえあれば、グラマラスにも、キュートにも、ハンサムにも自由自在に変わるのがブレイディングヘアなのです。

ステレオタイプを覆す!

ブレイディングに対して、ステレオタイプな考えを持たれているのは日本だけではありません。アメリカでも学校や職場で髪を編むことが受けいられるようになったのはここ数年の話。様々なヘアブレイディングスタイルを世の中に紹介することで、少しずつステレオタイプが覆されていくはず。

HAIR BRAIDING ART PHOTO COMPETITION 2022

ヘアブレイディングアートフォトコンペティション

今年のテーマは、**SOIL**と**RHYTHM**。プロ部門に加え、オープン部門を用意しました。

今回2回目に開催されたヘアブレイディングアートフォトコンペティション。初回はルールなどは少なく、なるべく多くの人が参加できる設定にしました。今回は、第1回目開催時の反省を元に、プロ部門ではモデルを黒人系にすることをルールに追加。フォトコンペティションでは、見る人のブレイディングに対する印象を変えることもそうですが、ブレイディングをする側のプロフェッショナルの意識を高めること、そしてより多くの美容師達が俗にいう”ブラックヘア”に興味を持ってもらうことが目的だった為、黒人特有のヘアテクスチャーを上手く扱えることが必須だと考えました。日本人が髪を編むこと（プロもお客さまも）は、文化の盗用なのではないかという人も多いのが事実。でも、グローバル化が進む中で、どのような髪質にも対応することが出来るプロフェッショナルが増えることも大切ですし、まだ髪を編むという行為が一般的でない日本で、歴史的な意味や文化的な意味を理解した上でブレイディングスタイルを楽しむ日本人が増えることで、イメージが変わり日本に住む黒人もミックスの人も堂々と髪を編んで学校や職場に行くことが出来るのではないかと考えます。

Changing society through Art!

MEET THE JUDGE!

世界で活躍するタレント性に溢れる審査員達

MATTHEW JORDAN SMITH

ニューヨーク・ブルックリン出身で現在は東京を拠点に、ニューヨークとロサンジェルスで活動するフォトグラファーでNikonアンバサダー。2021年には、東京オリンピックの選手村で専属フォトグラファーとしても活躍し、現在までに３冊の写真集を出版。ゼンデイヤやサミュエル・L・ジャクソン、オプラ、タイラ・バンクス、モナコ公国の皇子など、世界のセレブリティーを彼のレンズで納めている。

カナダで大活躍しているヘアーアーティストのロヒファ。オンタリオ州ハミルトンという場所でLoDidThatというヘアスタジオを経営していて、スタジオでは、ユニークなヘアスタイルを提供しています。
近隣地域の人たちを元気づけ、幸せを広げることが彼女のミッション。

LOHIFA

ガーナ出身で、現在東京を拠点として活動するフォトグラファー兼クリエイティブ・コンサルタント。アフリカにいるクリエイティブ達を助けるNGOに勤め、現時点で400人以上のクリエイティブ・アーティストをサポートしてきた経験もある。

JONATHAN

日本とナイジェリアのミックス。大学在学中、雑誌『Glitter』専属モデルとしてモデルデビューを果たしPUMAやASICSなどのキャンペーン広告に起用された。2020年にはミスユニバース ジャパン大会で準グランプリとなる。SONYやCANNONのプロモーションムービー、またLEXUS・UNIQLOのTVCMなど多くの広告で活躍する。後にNetflix “Up shows”のメインキャストととして声優を務めたことをきっかけに2022年から女優としてのキャリアを本格的にスタートする。

RAIMU KAMINASHI

FINALIST
Best Concept賞
オープン部門
テーマ：いちごミルク

FINALIST
Best Concept賞
オープン部門
テーマ：**Suneset Sea**

FINALIST
プロ部門
テーマ：**SOIL**

FINALIST
プロ部門
テーマ：**SOIL**

FINALIST

オープン部門

テーマ：**SELF LOVE**

FINALIST
プロ部門
テーマ：**SOIL**

FINALIST
プロ部門
テーマ：**RHYTHM**

Wrapping Up !

TONEZ MAGAZINE VOL.003

By Aisha NajiNde

2回目の開催となったHair Braiding Art Photo Competition.2回の延長がありましたが、素敵な作品を応募していただきありがとうございました！今回は前回よりも、協力してくれた審査も増え、髪型のスタイルだけではなく、写真の質、メッセージ性、モデル力など色々な側面から審査を行ったため、グランプリ、準グランプリに満たす総合点に達した作品は残念ながらありませんでしたが、審査員からコンセプト面で特に評価が高かった作品が特別賞として、2作品選ばれました。ブレイディングヘアーは、日本では特殊ヘアやブラックヘアと言われ、”こういうスタイルでないとダメ！ "と髪を編んで貰う側も、編む側も固定観念を持たれていることが多いと思います。ベストコンセプト賞に選ばれた２つの作品は、ブレイディングスタイルを使って、新しい世界観を表現できていることが、審査員からコンセプトの面で高評価だった理由です。オリジナリティーを持って、もっとフレキシブルに型にとらわれず、もっとブレイディングが好まれるようになったら嬉しいですし、プロフェッショナルの方たちにも、もっともっと編みの深さの虜になって、新しいスタイルを提案し続けてもらえたらと思います！海外の人の中には、アジアで髪を編んでいるという行為をよく思わない人もいることが事実ですが、このようなフォトコンを通して、少しずつでもブレイディングがアート、文化、そして必要不可欠として受け入れられるようになってほしいと私は思っています！

TONEZ
MAGAINE Vol. 003

STAFF

企画: **HBA Japan**

(表紙）写真: **Emiko "Emmy" Najima**

(表紙)スタイリスト: **Emiko "Emmy" Najima**

(表紙)メイク:**Emiko "Emmy" Najima**

(表紙）モデル: **Muna**

文・編集: **Aisha NajiNde**

© HAIR BRAIDERS ASSOCIATION JAPAN®

Next Issue: カーリーヘアデイ特集